その人らしく、〝生きる・活きる〟地域を目指して

しまねリハビリテーション ネットワーク 10周年記念誌

しまねリハビリテーションネットワーク
SHIMANE REHABILITATION NETWORK

令和8年11月発刊

10周年記念誌発刊にあたってのご挨拶



これまでのつながりを力に、次の10年へ―
「共に学ぶ・共に動く・共に育て・支える」10年を越えて―

しまねリハビリテーションネットワーク
会長　嘉田 将典

しまねリハビリテーションネットワークは、前身である「島根県リハビリテーション専門職協議会」の設立から10周年という大きな節目を迎えました。平成29年、島根県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会の3士会が力を合わせ、介護予防や地域ケア会議など、地域におけるリハビリテーション専門職の活動を支える仕組みづくりから歩みを始めました。その後、島根訪問リハビリテーションネットワークとの組織統合を経て、令和5年度から現在の「しまねリハビリテーションネットワーク」として多くの専門職団体と共に新たな歩みを進めています。この10年間、私たちは多くの地域で、住民の皆様、行政、医療・介護・福祉に携わる多くの専門職の皆様と出会い、共に考え、共に活動してきました。地域ケア会議や介護予防への専門職派遣、人材育成、多職種連携など、一つひとつの活動を積み重ねることができたのは、私たちの力だけではなく、関係する皆様のご理解とご協力があったからこそです。心より感謝申し上げます。

そして今、私たちは10周年を「次の10年へのスタートライン」と捉えてさらに取り組みを進めます。

これからの島根県では、人口減少や高齢化、医療・介護人材の不足など、地域を取り巻く環境は大きく変化していきます。その中で、リハビリテーションに求められる役割も、医療機関や施設の中だけにとどまりません。子どもから高齢者まで、一人ひとりが住み慣れた地域で、その人らしく「生きる」「活きる」ことを支える視点が、これまで以上に重要になります。だからこそ、私たちは専門職だけで完結するのではなく、さまざまな職種、団体、行政、そして地域住民の皆様との「つながり」をさらに大切にしていきたいと考えています。

「共に学ぶ」「共に動く」「共に育て・支える」私たちはこの言葉を10年間の歩みの証として、さらにその先の10年を切り拓いていきたいと思います。10年間で築いたつながりを力に変え、島根県のどこに暮らしていても、その人らしく「生きる・活きる」ことができる地域を目指して。これからも皆様と共に歩み続けます。次の10年も、しまねリハビリテーションネットワークにご期待いただき、そして、ぜひ一緒に地域をつくっていただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

祝辞



島根県健康福祉部
部長　周山 幸弘

このたび、「しまねリハビリテーションネットワーク」が結成10周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。貴ネットワークにおいて、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の三職種がそれぞれの専門性を活かし、組織の枠を超えて連携しながら地域リハビリテーションの推進に取り組んでこられたことは、地域包括ケアの構築において重要な意義を持つものであります。現在、島根県では高齢化が急速に進み、県民の健康寿命の延伸と自立した生活の維持が喫緊の課題となっており、加齢や疾病に伴い心身の機能が低下していく状況において、個々の残存能力を見極め、それを活かしながら生活を維持・向上させていくための専門的なアプローチの必要性が高まっています。こうした課題に対し、リハビリテーション専門職の皆様は、医療機関において早期から機能回復と退院後の生活を見据えた支援を実践してこられました。在宅移行後も訪問リハビリテーション等を通じて在宅生活の継続を支え、さらに地域における介護予防や自立支援に資する生活リハビリへと繋げておられます。特に県の介護予防事業においては、平成27年度から全県的な研修会の開催を、平成29年度からは併せて市町村への専門職派遣の調整などにご協力いただいております。医療から在宅、そして地域へと切れ目なく展開される一連の関わりは、その人らしい生活を送ることを可能にする大きな支えとなっており、多角的な視点から地域リハビリテーションの質の向上と体制整備に尽力される貴ネットワークの取組に対して、敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。県といたしましても、医療と介護の連携体制をさらに強化し、時代にあった地域包括ケアの構築に取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、貴ネットワークの今後の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



リハビリテーションネットワークへの期待

しまねリハビリテーションネットワーク
顧問　櫻井 照久

この度は、「しまねリハビリテーションネットワーク」の設立10周年、誠におめでとうございます。 日頃より会員の皆様のご活躍に敬意を表するとともに、地域の福祉・医療・介護のネットワークにおいて、リハビリ専門職としてご支援をいただき、心より感謝申し上げます。 また本日は、令和8年度「しまねリハビリテーションネットワーク会議」にご招待賜り、厚く御礼申し上げます。
県内の職能団体の皆様が参加され、「共に学び」「共に動く」「共に育て・支える」をスローガンに職能を超えた交流と熱心な意見交換をされることは、当会議の目的であるネットワークづくりの推進にとって大変有意義であると考えております。
今夏は、記録的猛暑に加え、中東情勢の悪化によるエネルギー価格や物価の高騰、金利の上昇などが重なり、生活への負担が増しております。このような中、本年度は30年ぶりのプラスとなる診療報酬改定が行われましたが、人口減少や担い手不足、制度改正の負担などから、医療・介護現場の経営は依然として危機的な状況にあります。今後も事業経営の安定に向け、規制緩和や報酬改定の引き上げを国に要望してまいります。
こうした状況下で、いかに医療・介護・福祉サービスの継続と健全経営を確保するかという課題が山積しております。人口減少が進む島根の現状を踏まえ、誰もが安心して住み続けられる「街づくり」を目指すには、地域の声をまとめた提言が必要です。国でも「2040年に向けたサービス提供体制のあり方」検討会において地域類型に応じた体制構築が示されており、当県におきましても現状を分析し、今後の制度改定に向けた意見集約を進める必要があります。
2040年に向けて地域医療構想が進み、医療機関の役割分化や「地域包括ケアシステム」の深化、在宅医療の充実が同時に求められています。また、2024年の「共生社会を実現するための認知症基本法」施行や基本計画の閣議決定など、認知症施策も大きく進展いたしました。ノーマライゼーションの理念に基づき、認知症や障害とともに生きる方々が尊厳を持って生活できる「共生社会」の実現に向け、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応した持続可能な社会保障制度の構築が不可欠です。
85歳以上人口が増加し、社会資源に制約がある中、医療では「治し支える」視点を、介護では医療との連携強化を重視し、現場ではICTやAIの活用、タスクシフトを進めることが求められます。さらに、地域におけるフレイル予防や、尊厳ある日常を保つための「健康づくり」の推進も重要です。専門職が分野横断的に対話を重ね、誰一人取り残されない社会環境を整えていかなければなりません。
こうした取り組みを具現化するため、「しまねリハビリテーションネットワーク会議」が今後ますます発展し、会員の皆様が本日の研修や意見交換を通じリハ職の役割を再認識され、それぞれの地域や職場でご活躍されますことを祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

各構成団体からのメッセージ



一般社団法人　島根県理学療法士会
会長　小川 昌

しまねリハビリテーションネットワーク10周年、誠におめでとうございます。島根県理学療法士会を代表し、心よりお祝い申し上げます。この10年間、多職種や各団体が垣根を越えて連携し、島根のリハビリテーションの推進・向上に尽力してこられた歩みに深く敬意を表します。多様な関係者が集い、課題を共有し、支え合ってきた基盤こそ、次の時代へ踏み出す力となります。今、社会構造の変化に伴い、リハビリテーション専門職に求められる役割も大きく変わりつつあります。病気やケガからの回復支援にとどまらず、人々が住み慣れた地域で、その人らしく生き生きと暮らし続けるための「生活と人生の伴走者」となることが求められています。今後は、医療・介護の枠組みを超え、予防や健康増進、フレイル対策、まちづくりや共生社会の実現など、地域社会への貢献を広げていくことが重要です。専門職一人ひとりが地域住民や関係者と手を取り合うことで、「誰もが安心して暮らせる島根」が形作られていくと確信しています。未来を創る道のりは決して平坦ではありませんが、しまねリハビリテーションネットワークという繋がりが私たちの強みです。この10年を通過点とし、当会も構成団体の一員として、ともに地域の未来を切り拓いてまいります。今後のさらなるご発展を心より祈念申し上げます。



一般社団法人　島根県作業療法士会
会長　小林 央

しまねリハビリテーションネットワークが設立10周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。介護予防・日常生活支援総合事業を協働して推進するために発足した「島根県リハビリテーション専門職協議会」は、役割を深化させ、「しまねリハビリテーションネットワーク」へと発展してきました。地域づくりと人材育成の視点を強調し、多職種との連携・協働を具体化する中で、リハビリテーションの普及啓発、構成員の知識・技術の向上、職種間の連携体制の構築という成果を重ねられました。今後は、「共に学ぶ」「共に動く」「共に育て・支える」というメッセージをさらに形にし、新たな地域医療構想、医療・介護連携、地域づくりなどの課題に取り組むことが期待されます。同ネットワークが果たす役割は、今後さらに大きくなるでしょう。私たち作業療法士は、作業、すなわち一人ひとりにとって大切な生活行為や心身の活動を通じて、健康と幸福に寄与する専門職です。各構成団体の強みを活かし、手を取り合うことで生まれる力をもって、多方面からの期待に応えてまいりましょう。ネットワークならびに構成・協力団体のさらなる飛躍と発展を心より祈念申し上げます。



一般社団法人　山陰言語聴覚士協会　島根県言語聴覚士会
会長　門脇 康浩

設立当初、地域包括ケアシステムの構築が進められる中、地域からの相談や人材派遣の窓口を一本化し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が職種や所属を越えて連携することは、ネットワークの大きな目的の一つでした。この10年間でその役割は広がり、医療・介護・福祉など、さまざまな分野で専門職が協働し、地域の課題に取り組むための大切な基盤となっています。島根県では高齢化が進み、摂食嚥下障害やコミュニケーション障害への対応に加え、乳幼児期から学齢期のことばや発達に関する支援など、言語聴覚士に求められる役割はますます大きくなっています。言語聴覚士は、生涯にわたって「話す・聞く・食べる」を支える専門職です。しかし、県内では人材不足が続き、地域によっては必要な支援を十分に届けられていない現状があります。子どもから高齢者まで、世代や分野を越えて支える地域共生社会の実現に向けて、限られた人材だからこそ、職種や組織の垣根を越えた連携が重要になります。
この10年間、言語聴覚士会の活動を支え、ともに地域のリハビリテーションを築いてくださったネットワークの皆様、関係機関・団体の皆様に心より感謝申し上げます。次の10年も、互いの専門性を尊重し、必要な支援を必要な方へ届けられる地域づくりに取り組んでまいります。

沿革（2015~2026）



2015年　島根県からの委託により研修事業開始

2016年　島根県リハビリテーション専門職協議会設立

2017年　役員改選

2019年　リハビリテーション専門職の市町村への派遣体制構築



2019

2020年　役員改選

2022年　組織検討委員会を設置

2023年　しまねリハビリテーションネットワーク発足

リハビリテーションネットワーク会議スタート

2025年　役員改選

2026年　10周年記念式典


2022

島根県リハビリテーション専門職協議会は平成29年2月に島根県からの支援を受けて、主に介護予防や地域ケア会議にかかる全県的な専門職派遣の仕組みを構築する目的で島根県理学療法士会・島根県作業療法士会・島根県言語聴覚士会（以下、３士会とする。）の合同組織として設立された。

設立後、派遣者名簿の作成や人材育成に向けた研修会の開催などを主な事業として活動してきた。そうした中、時代背景の変化もあり、養成校支援や災害支援などリハ職能全体で取り組むべき事項が増えてきた。有機的・発展的に３士会が連携して地域課題に取り組むことができるように抜本的に組織検討を行う必要性が出てきた。

これからの時代に３士会はじめ多団体と連携を深め進めるべきことは何なのかを議論するために組織内に組織検討委員会を設置。協議を経て令和5年度から組織名称を新たに「しまねリハビリテーションネットワーク」と定め活動することとした。

10年の活動の振り返り　2016~2020

平成28年度の設立以降、リハビリテーション専門職の知識や技術を地域に生かすため、研修会や実践報告、関係機関との連携を進めてきました。地域ケア会議への参画、住民運営の通いの場への支援、介護予防や災害対策など、地域の課題に応じて活動を広げてきました。

2016~2020
地域支援の基盤づくり
転倒予防・認知症・地域づくりなど地域に寄り添う活動を推進

年度	研修会・主なテーマ
2016年	「口コモ健診活動で地域住民の骨折・転倒は防げるか?」 鳥取大学医学部附属病院　理学療法士　松本 浩実 氏 「作業療法士は転倒予防において何を仕掛けるのか？」 株式会社 Community Care　作業療法士　藤井 寛幸 氏 学校法人同志舎リハビリテーションカレッジ島根　柿本 将平 氏 「認知・言語聴覚領域」からみた転倒との関連 社会医療法人倉敷平成病院　言語聴覚士　藤本 憲正 氏 「転倒予防に関する最新の知見」 鳥取大学医学部附属病院整形外科　教授　萩野 浩 氏  2016
2017年	「『地域共生社会』の推進に向けて -社会背景とこれまでの施策から-」 松江保健所　所長　村下 伯 氏 「認知症ケアとリハビリテーション」 エスポアール出雲クリニック　作業療法士　吉田 朋子 氏 【シンポジウム】 [益田市] 認知症ネットワークの取組 [出雲市] 認知症ケアパス [美郷町] 認知症ケアにおける企業など多機関との提携 [浜田市] 認知症カフェの取組  2017
2018年	「高齢者のフレイル・低栄養とその予防対策」 島根県立大学看護栄養学部　教授　中山 真美 氏 「咀嚼嚥下と栄養とオーラルフレイル」 出雲市民リハビリテーション病院　言語聴覚士　景山 洋一郎 氏 「地域と取り組む食育活動～介護予防を中心に～」 島根県食生活改善推進協議会　会長　宮本 美保子 氏  2018
2019年	「行政の立場から」江津市健康医療対策課　主任介護支援専門員　猪木迫 聡 氏 「理学療法士の立場から」訪問看護ステーションくるみ　理学療法士　鐵池 高志 氏 「作業療法士の立場から」大田市立病院　作業療法士　小林 央 氏 「言語聴覚士の立場から」介護老人保健施設 まんだ　言語聴覚士　原 順子 氏 【地域住民による実践報告】手をつなぐ会/堂原・須原体操教室
2020年	「先進地域の今とこれから」飯南町保健福祉課　理学療法士　嘉田 将典 氏 【実践報告】 「益田地域の現状と課題：地域ケア個別会議」 益田地域医療センター医師会病院　理学療法士　廣瀬 強志 氏 「海士の現状と課題：地域ケア会議」 海士町国民健康保険 海士診療所　言語聴覚士　福田 裕子 氏 「浜田の現状と課題：地域ケア会議・通いの場」 学校法人同志舎 リハビリテーションカレッジ島根　作業療法士　柿本 将平 氏

10年の活動の振り返り　2021~2026

地域の課題や社会情勢の変化に応じて活動の幅を広げながら、リハビリテーション専門職の連携と専門性を生かし、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりを目指していきます。

2021～2025

活動の広がりと発展

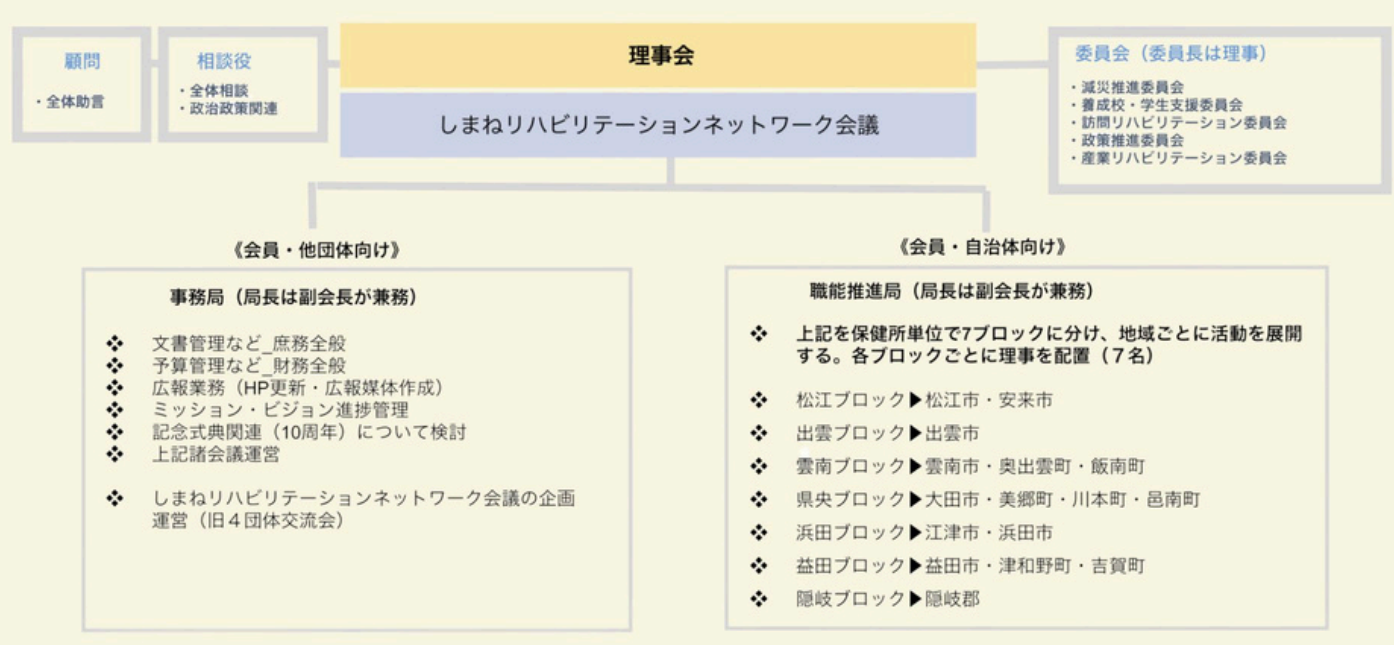
災害対策・地域共生・就労支援など多様なニーズに応える活動へ

年度	研修会・主なテーマ
2021年	「災害対策を学ぶ」 国立研究開発法人防災科学技術研究 特別研究員　松川 杏寧 氏 「災害を意識した日常業務の取り組み方」 島根県理学療法士会　理学療法士　濱田 龍 氏 「コロナ禍におけるリハビリテーション専門職の病棟支援」 益田赤十字病院　作業療法士　大賀 隆憲 氏
2022年	「リハビリテーション専門職に対する今後の期待」 医療法人同仁会　理事長　櫻井 照久 氏 「したいこと」「できること」を未来志向で考える 津山市役所 高齢介護課 主幹　作業療法士　安本 勝博 氏 「健康に働くこと」への支援 株式会社Canvas 代表取締役　作業療法士　藤井 寛幸 氏  2022
2023年	行政説明：島根県健康福祉部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進室　中島 和子 氏 情報提供：独立行政法人 労働者健康安全機構 島根産業保健総合支援センター　仲佐 菜生子 氏 「共に学ぶ・共に動く・共に育て支える」 医療法人同仁会　理事長　櫻井 照久 氏 「その人らしく生きる・活きるために」 川崎医療福祉大学 理学療法学科　教授　藤田 大介 氏 「地域におけるリハビリテーション専門職への期待」 島根県後期高齢者医療広域連合　尾添 聡美 氏 「松江市失語症者支援センターの取り組み」 松江市失語症者支援センター　センター長　門脇 康浩 氏 「各ブロックごとの課題や特徴的な取り組み・共有したいコトモノ」 各ブロック理事  2023
2024年	行政説明：島根県健康福祉部高齢者福祉課　中島 和子 氏 「日々の生活から守る！災害に負けない体と生活」 しまねリハビリテーションネットワーク減災推進委員会　委員長　野口 瑛一 氏 「リハ専門職による災害支援活動のこれまでとこれから」 島根県災害リハビリテーション推進協議会：島根JRAT代表　馬庭 壮吉 氏
2025年	「介護予防の基礎知識を学ぶ」～訪問リハビリテーションへの活用～ 筑波大学人間系　教授　山田 実 氏 「市町村の取り組み」 出雲市役所 医療介護連携課　作業療法士　飯塚 智香 氏

組織・役員の変遷

期・年度	3役	理事／役員	顧問・相談役
【平成28年度】 執行部	会　長：内田 賢(PT) 副会長：泉 靖司(OT) 門脇 康浩(ST) 事務局長：吉岡 健太郎(PT)	【役員】 嘉田 将典(PT) 宇都宮 賢一(OT) 青木 耕(ST)	ー（未設置）
【平成29年～ 令和元年度】 執行部	会　長：太田真英(PT) 副会長：小林 央(OT) 門脇 康浩(ST) 事務局長：吉岡 健太郎(PT)	【会計】吉岡 弘恵(OT) 【専門職派遣調整】 三島 佳祐(PT)/青木 竜太郎(OT)/加茂 昌子(ST) 【知識・技術向上に関する事業】 嘉田 将典(PT)/黒田 曜嗣(OT)/景山 洋一郎(ST) 【専門職に関わる広報事業】 鐵池 高志(PT)/藤井 寛幸(OT)/北川 佑馬(ST)	ー（未設置）
【令和2年度～ 令和3年度】 執行部	会　長：藤井 寛幸(OT) 副会長：嘉田 将典(PT) 加茂 昌子(ST) 事務局長：黒田 曜嗣(OT)	【会計】岩﨑 修子(ST) 局員：清原 圭介(ST)/三島 佳祐(PT) 【研修局長】景山 洋一郎(ST) 局員：野村 道徳(PT)/上野 美千子(OT) 【広報局長】鐵池 高志(PT) 局員：青木 竜太郎(OT)/北川 佑馬(ST)	ー（未設置）
【令和4年度】 執行部	会　長：藤井 寛幸(OT) 副会長：加茂 昌子(ST) 嘉田 将典(PT) 事務局長：景山 洋一郎(ST)	【会計】岩﨑 修子(ST) 局員：三島 佳祐(PT) 【研修局長】黒田 曜嗣(OT) 局員：野村 道徳(PT)/上野 美千子(OT) 【広報局長】鐵池 高志(PT) 局員：青木 竜太郎(OT)/北川 佑馬(ST)	ー（未設置）
【令和5年度～ 令和6年度】 執行部	会　長：加茂 昌子(ST) 副会長：藤井 寛幸(OT) 事務局長：嘉田 将典(PT)	【ブロック理事】 濵田 龍(PT)/森山 智博(PT)/森脇 繁登(OT) 藤原 宗貴(PT)/川上 雄也(PT)/野村 道徳(PT) 間 康一（PT） 【委員会理事】 野口 瑛一(PT)/青木竜太郎(OT)/板垣知亜紀(OT) 小川 昌(PT)/道端ゆう子(PT)	顧問:櫻井 照久(Dr) 相談役: 小川 昌(PT) 小林 央(OT) 門脇 康浩(ST)
【令和7年度～ 令和8年度】 執行部	会　長：嘉田 将典(PT) 副会長：森脇 繁登(OT) 事務局長：嘉納 大輔(ST)	【ブロック理事】 鐵池 高志(PT)/森山 智博(PT)/加茂 昌子(ST) 種 宏樹(OT)/川上 雄也(PT)/沖野 辰也(PT) 間 康一(PT) 【委員会理事】 熊谷 英岳(ST)/青木竜太郎(OT)/小川 昌(PT) 道端ゆう子(PT)/板垣知亜紀(OT)※令和7年度 青木 徹(PT)※令和8年度	顧問:櫻井 照久(Dr) 相談役: 小川 昌(PT) 小林 央(OT) 門脇 康浩(ST)

しまねリハビリテーションネットワーク組織体制
（令和8年10月現在）



協力団体

島根県医師会・島根県歯科医師会・島根県薬剤師会・島根県栄養士会
島根県医療ソーシャルワーカー協会・島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」
島根県歯科衛生士会・島根県介護支援専門員協会
島根県地域包括支援センター連絡会・島根県老人保健施設協会
島根県訪問看護ステーション協会・島根県社会福祉士会

しまねリハビリテーションネットワーク会議

しまねリハビリテーションネットワークの活動として、しまねリハビリテーションネットワーク会議を開催する。

島根県内の多くの職能団体がそれぞれの専門性を生かしながら、連携を深め「共に学ぶ」「共に動く」「共に育て・支える」ための情報共有・企画運営の場とする。地域の課題を共有し、政策に生かす取り組みについても推進する。

将来的には保健・医療・介護・福祉における職能を越えた人材育成を行い、地域で活用する仕組みを構築する。

ー私たちの想いー



私たちのミッションスローガン：
その人らしく”生きる・活きる”地域を目指して

リハビリテーションとはどのような状態であってもその人らしく「生きる」「活きる」ための取り組み全てを意味します。私たちは地域住民・行政関係機関・多くの専門職団体等と連携を深め、この取り組みを地域ごとに進めることで多様な人々が共に希望を持ちながら暮らすことができる社会を目指します。



ー私たちの活動ー

「共に学ぶ」

子どもから高齢者まですべての人が、その人らしく「生きる」「活きる」ことができるように関わる人材育成を行います。多くの職能団体と連携を深めながら共に学ぶ場をつくります。

「共に動く」

地域に根ざしたネットワークを構築します。共に動き、リハビリテーション政策の推進や専門職による支援体制を拡充します。地域住民と共に住み続けることができる地域づくりを推進します。

「共に育て・支える」

島根県内のリハビリテーション専門職養成校及び学生への支援を行い、職能団体としての組織力を高めます。経験の有無や職種に関わらず、共に育ち、支え合う関係づくりを進めます。

ロゴマークに込めた想い

しまねの緑豊かな地域をイメージし基本の配色は緑です。島根県の表現では中央の茎を「し」とデザインしました。「共に学ぶ」「共に動く」「共に育て・支える」ことを三士会が連携する姿として、三つ葉のクローバーを選びました。植物は組織が育つイメージにもなり、三つ葉のクローバーには「約束」という花言葉があります。さらなる発展を約束するというメッセージを込めています。

2016 ▸ 2026

SHIMANE REHABILITATION NETWORK
10TH ANNIVERSARY SPECIAL BOOKLET

しまねリハビリテーションネットワーク　ホームページ